

令和3年度末自己評価書

令和4年2月 愛南町立城辺小学校

【評価基準】						考察(◆)と改善方策(◇)	
重点目標		目 標	評価者	目標値 肯定90%以上			判定
1	社会総がかりで取り組む教育	1 CSの研究と実践による開かれた信頼される学校づくりを行う。	教職員	100	A	A	<p>◆概ね肯定的に捉えられている。</p> <p>◇12月学校運営協議会で実施された「スマホ依存は病気である」の講演の内容は、児童の課題に沿った内容となっていた。参加者がゲームやスマホ依存への脅威を感じとり、学級担任から各児童へ講演内容をもとにした指導を行った。自由記述で指摘いただいた通り、2月の参観日にネット・ゲームの脅威について、保護者・児童を対象に講演を実施する。今後も保護者や地域、学校で連携し、信頼される学校づくりに取り組んでいきたい。</p>
			児 童				
			保護者	91	A		
			地域関係者	93	A		
	2 地域の人的・物的環境を活用する。	教職員	100	A	A		
		児 童					
		保護者	93	A			
		地域関係者	100	A			
学校運営協議会委員の所見			<p>○学校・地域・家庭間で、積極的な意見交換、問題や情報共有ができています。今後も継続して、児童の成長に対し、良い環境づくりの一助になればと思う。</p> <p>○コロナ禍で、様々な行事や活動が制限されたが、その中で気付いたこと、見過ごしてはいけない大切なことがあったはずである。現在の児童の実態を把握し、それに必要な研修を充実させてほしい。</p> <p>○講演やしめ縄づくりなど、専門家の方のお話を聞いたり、地域の方と交流ができたことが良かった。各学年にあった体験学習による学びは、プラス面が大きい。</p> <p>○明らかな人口減少が進む愛南町にとって、子どもたちは、町を守っていく貴重な人材である。地域活動を通して、故郷を知るといことは、大切なことだと考える。</p>				
学校の対応			<p>○コロナ禍で「児童のためにできること」を第一に考え、教育実践を行ってきた。様々な制限の中でも、保護者や地域の皆様に積極的に協力していただいていることを感じている。今後も、学校と家庭、地域が連携を図りながら、城辺の子を育てていく。</p> <p>○コロナ禍で思うように進んでいないのが、ふるさと学習である。一人一台のタブレット端末が導入され、教育環境は確実に向上した。そのような状況でも、地域の教育力を生かした学習は不可欠である。地域の人材や素材の活用をカリキュラムに盛り込み、愛南町を守っていく貴重な人材の育成にさらに努めていく。</p>				
2	一人一人を見つめ、育てる生徒指導の徹底と健全育成の推進	3 「いじめは絶対に許さない、見逃さない」学校づくりに努める。	教職員	100	A	A	<p>◆概ね肯定的に捉えている。</p> <p>◇全員が学校が楽しいと答えているわけではないので、100%の肯定率を目指し、保護者や地域との連携を行い、共通理解を図っていく。また、日々の児童との関わりや生活アンケートから児童の実態把握に努め、いじめの早期発見に努めていく。</p>
			児 童	94	A		
			保護者	96	A		
			地域関係者	96	A		
	4 「積小為大・凡事徹底」と規範意識の醸成を図る。	教職員	100	A	A		
		児 童	89	A			
		保護者	88	B			
		地域関係者	93	A			
学校運営協議会委員の所見			<p>○元気な挨拶が一番。マスク着用の中でも、挨拶の励行、きまりを守った行動について指導する必要はある。大人も大きな声で挨拶するなど、児童のお手本となるように心掛けていきたい。</p> <p>○「学校が楽しくない」と回答した児童がわずかにいることが気になる。一番大切なのは、「児童が行きたい学校づくり」である。集団の中で見落とされる児童がいないか目配りを忘れないでほしい。</p> <p>○誰にでも優しい気持ち、相手を思いやる気持ちが育つと良い。いじめ等に関する問題は、一律の指導は不十分な場面もあるので、いじめにつながる行動や相手のことを考えさせるなど、発達段階に応じた教育を実践してほしい。</p>				
学校の対応			<p>○挨拶等の基本的な生活習慣や規範意識の醸成については、本校が活用している「城っ子のきまり」を用いて、児童や職員が目標達成に向けて取り組むことができる環境づくりに努める。また、大人が児童のお手本となる取組ができるように、学校便りやホームページ等で情報発信をする。</p> <p>○一人一人の児童に寄り添った指導に心掛ける。日々、児童の様子を全職員で見て、積極的に情報交換・情報共有を行う。また、「まず指導」でなく、「話を聴くこと」を最優先する。児童が誰にでも相談できる雰囲気づくりに学校全体で取り組んでいく。</p>				

【評価基準】					考察(◆)と改善方策(◇)	
重点目標	目標	評価者	目標値 肯定90%以上			判定
3	確かな学力、豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進	5 授業力の向上 (主体的・対話的で深い学び、個に応じた指導、ICT活用)を図る。	教職員	100	A	A ◆タブレット端末活用に児童が慣れてきたため、授業で積極的に活用している。 ◆タブレット端末を活用すると、普段発表をしない児童も意欲的に自分の考えを表現することができ、教師も児童の考えを把握することができる。 ◇個に応じた指導や主体的・対話的で深い学びの実現に向けてタブレット端末を活用できるように研修をさらに進める。 ◇学校便りやホームページを通して情報発信をしていく。
			児童	97	A	
			保護者	94	A	
			地域関係者	100	A	
		6 家庭学習の習慣化に努める。	教職員	100	A	B ◆中間期に比べると児童・保護者の肯定率が10～16ポイントに上昇した。「まあまああてはまる」を含めると、児童・保護者ともに97%と高い肯定率である。宿題の出し方などについて、教職員で話し合い、共通理解の下で実践したことも有効であったのかもしれない。 ◇家庭学習の習慣が身に付いていない児童に対しては、休み時間や補充学習などを通して丁寧にフォローを行う必要がある。
			児童	76	C	
			保護者	78	C	
			地域関係者			
		6 家庭読書の習慣化に努める。	教職員	100	A	B ◆中間期に比べると保護者の肯定率が8ポイント上昇した。2学期は、読書週間に家族読書、読み聞かせ、PTAの本の福袋など様々な活動を行ったため、その効果が現れているのではないかと。 ◇読書週間に限らず、家族読書や読み聞かせの活動を定期的に行うとよい。家族読書の保護者アンケートを参考に、時期や方法などを検討する。
			児童	63	C	
			保護者	70	C	
			地域関係者			
		7 道徳教育の充実と自他のよさを認め合う集団づくりに努める。	教職員	92	A	B ◆概ね肯定的である。 ◇教師にあまり話し掛けてこない児童については、特に意識して様子を見たり声を掛けたりし、児童全員が安心できる環境作りに努める。 ◇子どものよさを教師が見取って紹介したり、児童同士のよさを見付け合う活動を取り入れたりする。
			児童	86	B	
			保護者	88	B	
			地域関係者			
		8 自己の体力向上・健康保持増進に取り組む態度を育成する。	教職員	94	A	B ◆陸上練習やスポーツ教室を通して、児童は様々な刺激を受けたのではないかと。 ◆児童・保護者の肯定率は、80～90%と高いが、学校としてきちんと早寝・早起き・朝ご飯の実態がつかめていないのも現状としてある。 ◆早寝にはゲームが関係しているのではないかと。 ◆縄跳び表などの運動を継続できるような工夫が必要である。 ◇健康保持増進のための全校的な取組をしてはどうか。例えば、「1日のうち、1回は、休み時間に外で遊ぶ・歩く」や「タブレット端末活用の最後に目を休ませる時間を設ける」など児童の健康プログラムを考える。
			児童	82	B	
			保護者	84	B	
			地域関係者			
学校運営協議会委員の所見			<p>○タブレット端末の活用が、児童に浸透していることに感心する。今後に必要なことと思われる。その一方で、児童が自らの言葉で、しっかりと考えを述べることを大切にする教育活動も実践してほしい。</p> <p>○児童には、一人一人それぞれ良いところがある。学校でも家庭でも、児童の頑張りを認めたり誉めたりするなど、自信を持たせることが大切である。</p> <p>○家庭学習・家庭読書において、教職員と保護者・児童との意識の差が気になる。保護者・児童のフォローを行ってほしい。</p> <p>○学校の図書室がよく整備され、工夫も見られる。教師のこうした取組が、児童の読書意欲につながっていると思われる。親子読書の取組は、とてもよかったと思う。</p> <p>○小学生の間にはいろいろなスポーツを経験させてほしい。一つのことを継続することも大切だが、まだ自分には何が適しているか分からないこともある。</p> <p>○インターネットに関する指導は、学校だけでなく家庭でのルールも大切である。</p>			
学校の対応			<p>○授業におけるタブレット端末の活用は、教職員も児童も高い意識で行っている。今後は、有効に活用するために授業実践をしていく。コロナ禍の影響もあるかもしれないが、授業中の発表の声の大きさが小さくなっている。自分の考えをしっかりと述べるということは、相手への礼儀でもあることを念頭に置いて、「相手に伝わるように発表する」ことを学校全体で取り組んでいく。</p> <p>○一人一人の実態に応じた指導は、本校の課題である。より良い指導ができるように、授業研究を行う。</p> <p>○家庭学習や家庭読書への取組は、児童や保護者の意見を尊重しながら、継続していく。好評であった「親子読書」は、時期等も考え実践していく。</p> <p>○休み時間に外で体を動かす体験を奨励していく。また、学年全員で取り組める運動を継続的に行う。えひめITスタジアム等の活用を積極的に行う。</p>			

【評価基準】						
A：目標を達成 B：8割以上達成 C：6割以上達成 D：6割未満					考察(◆)と改善方策(◇)	
重点目標	目標	評価者	目標値 肯定90%以上		判定	
4	9 地域と連携した安全教育の充実と安全・安心な教育環境の整備 家庭や地域、関係諸機関との連携・協力を努める。	教職員	100	A	A	◆中間期同様に、非常に高い肯定率である。しかし、学校内外では、日々小さな出来事が生じている。いつ大きな事故や事件が起きるか分からないのも確かである。保護者や地域からの情報を得られるように、連携・協力していく必要がある。 ◇肯定率100%を目指して連携・協力を努める。 ◇2学期末に行った通学路危険箇所点検について、毎年何回か定期的に行うことで家庭や地域、関係諸機関との連携・協力を図っていく。
		児童				
		保護者	98	A		
		地域関係者	100	A		
	10 系統的实践による危機回避能力・対応力、自助・互助・共助の育成を図る。	教職員	100	A	A	◆学級活動、避難訓練や引き渡し訓練等を通じて、安全な過ごし方について具体的に指導した。インターネットサイトを利用して、危機察知能力を高める機会も設けた。その結果、高い肯定率となっていると考えられる。 ◇今後も肯定率100%を目指して指導を続けていく。そのために、課題となることを洗い出す。来年度以降、隣接する城辺中学校と合同で行う避難訓練や自転車安全教室を、年間行事計画の中に位置付けることができるように連絡調整をしていく。
		児童	97	A		
		保護者	97	A		
		地域関係者	98	A		
学校運営協議会委員の所見		○南海トラフ地震に備える安全教育は非常に大切である。防災意識の醸成については、保護者や地域も学ぶべき点が多くある。今後も継続していただきたい。 ○毎年行われる引き渡し訓練など、学校からの指導をありがたく思う。通学路などの危険な場所の確認をし、児童に伝え、危機意識の向上につなげてほしい。中学校との合同避難訓練、近隣地域住民も含めた訓練も考えていくと良いのでは。 ○戸外で伸び伸びと遊ぶことが少なくなったように感じる。広場できまりを守りながら、大いに伸び伸びと活動してほしい。大人が見守ってやれると良い。				
学校の対応		○自然災害だけでなく、防犯、交通事故等、安全教育の充実を図る。日々の指導の中で、「こんな場合にどうする」「こんな場合にどうなる」など児童に考えさせる場面も取り入れていく。 ○今年度実施できなかった中学校や地域との合同避難訓練の実現に向けて、計画していく。 ○通学路の危険箇所等の点検は、毎年定期的実施する。保護者・児童の視点から危険箇所を把握することで、事故防止等につなげる。 ○学校運営協議会を中心に、放課後や休日中の児童の見守りを地域の大人に協力していただくように呼び掛ける。また、関係機関との連携も強化する。				
5	人権・同和教育と特別支援教育の充実 11 差別の現実に学ぶ研修と実践に努める。	教職員	100	A	A	◆教職員・児童・保護者ともに高い肯定率である。校区別人権・同和教育懇談会において児童の身近な生活経験を、児童の視点で振り返ったり、若竹委員会の自主的な活動を通して学び合うことで、子どもたちの人権への関心を高めることができたと考える。学校・学年便り・ホームページ等で、発信したことが保護者・地域関係者との共通理解につながったと考える。 また、教職員の研修会において、定期的に校長を講師とする人権・同和教育に関する研修を継続することにより、教職員の意識も高まった。 ◇今後も地域に学ぶ研修等に努め、人権・同和教育指導計画を基にしながら、差別の解消につながる意欲や態度・技能をもった児童の育成に努める。また、学校・保護者・地域との連携・協働に努める。
		児童	94	A		
		保護者	93	A		
		地域関係者				
	12 児童一人一人の教育的ニーズを把握した組織的・継続的な指導・支援に努める。	教職員	100	A	A	◆全体的に高い肯定率である。児童アンケートの中で「先生に相談できる」という項目が80%となり、中間期学校評価のCからBになった。保護者は、中間期学校評価のBからAとなり、日々の教育活動の取組が成果を上げつつある。 ◇保護者との対話や学校運営協議会等を利用して保護者や地域関係者が望む「児童一人一人の教育的ニーズ」の把握に努め、指導・支援に役立てていく。 ◇引き続き、定期的な生活アンケートや教育相談を活用しながら、普段から「先生に相談できる」人間関係作りや雰囲気作りに努める。また、学校として「いつでも、だれにでも」相談できる体制を児童・保護者に周知する。
		児童	80	B		
		保護者	91	A		
		地域関係者	91	A		
学校運営協議会委員の所見		○校内の研修が充実していることは、何よりである。教職員が同じ目線で進める学校でありたい。しっかりと「伝えていく教育」を継続してほしい。 ○若竹レターや「えがお」の発行など、継続して行われている活動が児童の人権意識を高めていると感じる。特に若竹レターは、学年を超えたつながりができ、とても良い。 ○一人一人を大切にしている指導ができていると感じる。児童がすぐに相談できる先生がいると思うと、保護者は安心して通学させ、仕事ができる。特別支援教育に関しても、児童が大切に守られていると感じる。一方で、「相談しづらい」と感じる児童もいることを忘れてはならない。「相談しやすい人間関係づくり」に努めてほしい。				
学校の対応		○校内外で研修していることを生かした授業実践に努めていく。教師の指導が、児童の人権意識を高めることもあるが、反対に低くすることもある。一人一人の職員が「わがこと」として人権教育に取り組む姿勢を常に忘れないようにする。 ○特別支援教育の充実を図るために、保護者への啓発を継続して行う。また、一人一人の児童の教育的ニーズに応えられる学習内容や指導・支援方法を考え、学校と家庭が協力しながら実践していけるように努める。また、関係職員での日々の話合いの時間を設定し、指導・支援に当たる。				

【評価基準】					判定	考察(◆)と改善方策(◇)
重点目標	目標	評価者	目標値 肯定90%以上			
6	13 GIGAスクール構想の意義を理解した具体的な実践を生み出す組織的な研修に努める。	教職員	94	A	A	◆教職員・保護者ともに高い肯定率であるが、教職員は実践に向けて、目標を高く持ち、組織的研修をする必要がある。 ◆タブレット端末・デジタル教科書を活用し、各学年に応じた学習形態を工夫・改善しながら、全校での研修の充実が図られ、参観日等での実践に向けて共通理解ができた。 ◆ICT指導員のきめ細かいサポート体制や教職員や支援員に対する児童に必要な実践的な研修が充実している。 ◇発達段階に応じた児童に寄り添ったICTを活用した授業等の実践方法を構築していく。 ◇引き続き、組織マネジメントを生かした研修の充実に努める。城辺小学校の教育目標を実現するために、学校・家庭・地域が連携・協働していく体制の確立にさらに努めていく。PDCAサイクルを生かし、学校の実情を分かりやすく情報発信していく。
		児童				
		保護者	99	A		
		地域関係者				
	14 教員育成指標に基づく、個人目標の設定とPDCAサイクルによる自己研鑽に努める。	教職員	100	A	A	
		児童				
		保護者				
		地域関係者				
学校運営協議会委員の所見		○城辺小学校の教師集団はすばらしいと常々考えているが、時に問題事象も見られるかもしれない。その場合は、機を逃さず、全体の問題として把握し、解決に努めてほしい。 ○毎週水曜日、職員会議等を行っているようで、気になる児童や各教科の様子等、学校全体で共有し、研修を行い、実践につなげているのだと推測している。今後も、児童・保護者のために、継続してほしい。 ○引き続き、学び続ける教職員として自己研鑽に努めてほしい。また、学校や児童の様子を、学校便り等で情報発信をしてほしい。				
学校の対応		○一人一台タブレット端末の活用は、高い水準で進んでいる。今後は、突然のオンライン授業等に対応できるように準備をするなど、職員で共通理解を図っておく。 ○学校として問題事象が起こった時に迅速に対応していくことは、大切なことである。保護者や地域からいただいた意見を真摯に受け止め、改善していく。児童のことを一番に考えた実践になるように努める。 ○「チーム城辺」として今後も、学校・保護者・地域の連携・協働に努めていく。				



<学校運営協議会の様子>